

NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド

リリース 8.1.2

VERITAS™

NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド

最終更新日: 2018-10-18

マニュアルバージョン: NetBackup 8.1.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup Web ユーザーインターフェースの概要	5
	NetBackup Web ユーザーインターフェースについて	5
	用語	7
	Web UI からの NetBackup マスターサーバーへのサインイン	9
第 2 章	VMware 資産の管理	11
	VMware サーバーの追加	12
	VMware サーバーの参照	12
	VMware サーバーの削除	13
	インテリジェント VM グループの作成	13
	インテリジェント VM グループの削除	18
	VM またはインテリジェント VM グループの保護	18
	VM またはインテリジェント VM グループの保護状態の表示	19
	VM またはインテリジェント VM グループの保護の解除	20
	インスタントアクセス VM の作成	20
	インスタントアクセス VM からの個々のファイルのリカバリ	22
	インスタントアクセス機能を使用する前の考慮事項	23
	VM の元の場所へのリカバリ	24
	VM の代替の場所へのリカバリ	27
	VMware サーバーを参照するときに発生するエラー	30
	インスタントアクセス VM からファイルをダウンロードするときに発生するエラー	31
	NetBackup サーバーの VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプション	32

NetBackup Web ユーザー インターフェースの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Web ユーザーインターフェースについて](#)
- [用語](#)
- [Web UI からの NetBackup マスターサーバーへのサインイン](#)

NetBackup Web ユーザーインターフェースについて

NetBackup 8.1.2 に導入された新しい Web ユーザーインターフェースは、次の機能を提供します。

- Chrome や Firefox などの Web ブラウザからマスターサーバーにアクセスする機能。Web UI でサポートされるブラウザについて詳しくは、[NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。
- 重要な情報の概要を表示するダッシュボード。
- 役割に基づくアクセス制御 (RBAC) により、管理者は NetBackup へのユーザーアクセスを構成し、セキュリティ、バックアップ管理、または作業負荷の保護に関連するタスクを委任できます。
- NetBackup セキュリティ管理者は、NetBackup セキュリティ、証明書管理、RBAC を管理できます。
- バックアップ管理者は、サービスレベル目標 (SLO) を満たすために保護サービスを提供します。資産の保護は、保護計画、ジョブ管理、資産の保護状態の可視性を通じて実現します。

- 作業負荷管理者は、**SLO**を満たす保護計画に資産をサブスクライブし、保護状態を監視し、仮想マシンのセルフサービスリカバリを実行できます。**NetBackup 8.1.2**で、作業負荷管理者は、**VMware** およびクラウドの作業負荷を管理および構成できます。
- 使用状況レポートは、マスターサーバー上のバックアップデータのサイズを追跡します。また、**Veritas Smart Meter** に簡単に接続して、**NetBackup** ライセンスを表示および管理できます。

NetBackup Web UI のアクセス制御

NetBackup では、役割に基づくアクセス制御を使用して **Web UI** へのアクセス権を付与します。このアクセス制御には、ユーザーが実行できるタスクと、ユーザーが表示および管理できる資産が含まれています。アクセス制御は、アクセスルールを通じて実行されます。

- アクセスルールは、ユーザーまたはユーザーグループに、役割とオブジェクトグループを関連付けます。役割は、ユーザーが持つアクセス権を定義します。オブジェクトグループには、ユーザーがアクセスできる資産と **NetBackup** オブジェクトを定義します。単一のユーザーまたはグループに複数のアクセスルールを作成でき、ユーザーアクセスを完全かつ柔軟にカスタマイズできます。
- **NetBackup** には、デフォルトの役割が 3 つ用意されています。ユーザーのニーズに最も適した役割を選択するか、そのユーザーの要件を満たすためのカスタムの役割を作成します。
- オブジェクトグループを使用して、資産やアプリケーションサーバーのグループを定義したり、ユーザーが表示または管理できる保護計画を示します。たとえば、特定の **VMware** アプリケーションサーバーを使用してオブジェクトグループを作成して、**VMware** 管理者向けアクセス権を付与できます。**VMware** 管理者が **VMware** 資産を保護するために選択できる特定の保護計画を、オブジェクトグループに追加することもできます。
- **RBAC** は、**Web UI** と **API** でのみ利用可能です。
NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (**EA**) を除いて、**Web UI** と **API** ではサポートされません。**EA** を使用して構成されているユーザーは、**Web UI** と **API** に対する完全なアクセス権を持ちます。**NetBackup** アクセス制御 (**NBAC**) が有効な場合は、**Web UI** を使用できません。

NetBackup ジョブおよびイベントの監視

NetBackup Web UI を使用すると、セキュリティ管理者やバックアップ管理者は、より簡単に **NetBackup** 操作とイベントを監視し、注意が必要な問題を特定できます。

- **NetBackup** セキュリティ管理者は、ダッシュボードを使用して、セキュリティ証明書や監査イベントの状態を参照できます。
- バックアップ管理者は、ダッシュボードを使用することで、**NetBackup** ジョブの状態を参照できます。ジョブが失敗したときに通知を受信するために、電子メール通知を構

成することもできます。NetBackup では、受信電子メールを受け取ることができる任意のチケットシステムをサポートします。

保護計画: スケジュール、ストレージ、およびストレージオプションを一元的に構成する場所

保護計画には、次の利点があります。

- バックアップのスケジュールに加えて、保護計画には、レプリケーションと長期保持のスケジュールも含めることができます。
- オンプレミスストレージまたはスナップショットストレージを簡単に選択できます。
- 利用可能なストレージから選択するときに、そのストレージで利用可能な追加機能を確認できます。たとえば、バックアップストレージ向けの NetBackup Accelerator やインスタントアクセスがあります。長期保存用には、クラウドプロバイダ、CloudCatalyst、暗号化、または圧縮があります。
- 保護計画ウィザードは、構成済みのサポート対象ストレージに基づいて、バックアップ、レプリケーション、または長期保存用ストレージを選択するために役立ちます。
- バックアップ管理者は、保護計画を作成して管理します。つまり、バックアップのスケジュールとストレージの責任を負います。
- 作業負荷管理者は、主に資産または資産グループを保護するための保護計画を選択します。ただし、バックアップ管理者は、必要に応じて保護計画に資産をサブスクライブすることもできます。

セルフサービスリカバリ

NetBackup Web UI は、VM のリカバリを簡略化します。インスタントアクセス機能を使用して、VM のスナップショットをマウントして、そのファイルに即時アクセスすることもできます。ファイルをローカルホストにダウンロードしたり、ファイルを元の VM にリストアしたりできます。

用語

次の表では、新しい Web ユーザーインターフェースで導入された概念と用語について説明します。

表 1-1 Web ユーザーインターフェースの用語および概念

用語	定義
アクセスルール	RBAC は、ユーザーまたはユーザーグループ、役割またはアクセス権、ユーザーまたはユーザーグループがアクセスできるオブジェクトグループを定義します。ユーザーまたはグループには、複数のアクセスルールを設定できます。

用語	定義
管理者	<p>NetBackup と、NetBackup Web UI を含むすべてのインターフェースに対する完全なアクセス権を持つユーザーです。ルート、管理者、拡張監査のすべてのユーザーは、NetBackup に対して完全なアクセス権を持ちます。NetBackup Web UI の各ガイドでは、NetBackup 管理者という用語は、NetBackup への完全なアクセス権を持つユーザーも指しますが、通常は NetBackup 管理コンソールのユーザーを指します。</p> <p>「役割」も参照してください。</p>
資産グループ	<p>「インテリジェントグループ」を参照してください。</p>
資産	<p>物理クライアント、仮想マシン、データベースアプリケーションなどの保護対象データです。</p>
従来のポリシー	<p>NetBackup Web UI では、レガシーポリシーが資産を保護することを示します。レガシーポリシーは、NetBackup 管理コンソールで作成します。</p>
インテリジェントグループ	<p>指定した条件 (クエリー) に基づいて、NetBackup が保護対象資産を自動的に選択することを可能にします。インテリジェントグループは、本番環境の変更が含まれるように、自動的に最新の状態に維持されます。これらのグループは、資産グループとも呼ばれます。</p> <p>VMware の場合は、[インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)] タブにこれらのグループが表示されます。</p>
インスタントアクセス	<p>NetBackup バックアップイメージから作成したインスタントアクセス VM は瞬時に利用可能になるため、ほぼゼロのリカバリ時間目標を達成できます。NetBackup は仮想マシンのスナップショットをバックアップストレージデバイスに直接マウントするため、ESXi ホストまたはクラスターはスナップショットを通常の仮想マシンとして扱えます。</p>
オブジェクトグループ	<p>RBAC の場合、ユーザーがアクセスすることを許可された資産のコレクション、保護計画、サーバー、その他のリソースを指します。</p>
保護計画	<p>保護計画は、バックアップを実行するタイミング、バックアップの保持期間、使用するストレージ形式を定義します。保護計画を設定したら、資産を保護計画にサブスクライブできます。</p>
RBAC	<p>役割に基づくアクセス制御です。管理者は、RBAC で構成されているアクセスルールを通じて、NetBackup Web UI へのアクセスを委任または制限できます。</p> <p>メモ: RBAC で構成したルールは、NetBackup 管理コンソールまたは CLI へのアクセスを制御しません。Web UI は、NetBackup アクセス制御 (NBAC) ではサポートされておらず、NBAC が有効になっている場合は使用できません。</p>

用語	定義
役割 (Role)	RBAC の場合、ユーザーが持つことができる権限を定義します。 NetBackup にはシステム定義の役割が 3 つあり、ユーザーがセキュリティ、保護計画、バックアップを管理したり、作業負荷資産を管理したりすることを可能にします。
ストレージ	データのバックアップ、レプリケート、または複製 (長期保持用) 対象となるストレージです。クラウドの作業負荷に対しては、スナップショットストレージが使用されます。
サブスクリプション、保護計画 に対して	資産または資産グループを保護計画と関連付ける処理です。関連付けられた資産は、計画のスケジュールとストレージの設定に従って保護されます。Web UI では、サブスクリプションを「保護の構成」とも表記します。サブスクリプション解除は、計画から資産を削除する処理を指します。
作業負荷 (Workload)	資産のタイプです。たとえば、VMware またはクラウドです。
ワークフロー	NetBackup Web UI を使用して完了できるエンドツーエンドプロセスです。たとえば、NetBackup 8.1.2 で、VMware とクラウドの資産を保護およびリカバリできます。

Web UI からの NetBackup マスターサーバーへのサインイン

ユーザーは、NetBackup Web UI を介して、NetBackup マスターサーバーに Web ブラウザからサインインできます。Web UI でサポートされるブラウザについては、[NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。

ユーザーは、ルートユーザーまたは管理者であるか、NetBackup RBAC でそのユーザー向けに設定された役割を持っている必要があります。

NetBackup Web UI を使用して、**NetBackup** マスターサーバーにサインインするには

- 1 Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

`https://masterserver/webui/login`

masterserver は、サインインする NetBackup マスターサーバーのホスト名または IP アドレスです。

- 2 クレデンシャルを入力して、[サインイン (Sign in)] をクリックします。

次に例を示します。

ユーザーの種類	使用する形式	例
ローカルユーザー	<i>username</i>	root
ドメインユーザー	<i>DOMAIN¥username</i>	WINDOWS¥Administrator

VMware 資産の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- VMware サーバーの追加
- VMware サーバーの参照
- VMware サーバーの削除
- インテリジェント VM グループの作成
- インテリジェント VM グループの削除
- VM またはインテリジェント VM グループの保護
- VM またはインテリジェント VM グループの保護状態の表示
- VM またはインテリジェント VM グループの保護の解除
- インスタントアクセス VM の作成
- インスタントアクセス VM からの個々のファイルのリカバリ
- インスタントアクセス機能を使用する前の考慮事項
- VM の元の場所へのリカバリ
- VM の代替の場所へのリカバリ
- VMware サーバーを参照するときに発生するエラー
- インスタントアクセス VM からファイルをダウンロードするときに発生するエラー
- NetBackup サーバーの `VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL` オプション

VMware サーバーの追加

VMware サーバーとそのクレデンシャルを追加できます。

メモ: この手順には、バックアップ管理者の役割が必要です。

VMware サーバーとそのクレデンシャルを追加するには

- 1 左側の[VMware]、[サーバー (Servers)]タブの順にクリックします。
このタブには、アクセスできる vCenter サーバーと ESXi サーバーが表示されます。
- 2 [+ 追加 (Add)]をクリックして、サーバーの追加、サーバー形式の選択、ホスト名とクレデンシャルの入力を行えます。

注意: VMware サーバー名とクレデンシャルを正しく入力してください。NetBackup Web UI では、サーバーのホスト名またはクレデンシャルは検証されません。サーバー名またはクレデンシャルが正しくない場合、Web UI は、サーバーへのアクセスを必要とする操作を実行できません。

- 3 [保存 (Save)]をクリックします。
- 4 別の VMware サーバーの NetBackup クレデンシャルを入力するには、[追加 (Add)]をクリックします。

重要!

vCenter または ESXi サーバーでの VM やその他のオブジェクトの検出は、VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプションに設定された間隔で実行されます (デフォルトは 8 時間)。その間隔によっては、サーバーの VM とその他のオブジェクトが、サーバーの追加後すぐには表示されない可能性があります。VM やその他のオブジェクトをすぐに検出するには、次のトピックで説明するように NetBackup ディスカバリーサービスを再起動します。

p.30 の「[VMware サーバーを参照するときに発生するエラー](#)」を参照してください。

VMware サーバーの参照

vCenter Server とスタンドアロンの ESXi サーバーを参照して、VM を特定し、保護計画やリカバリポイントなどの詳細を表示できます。

VMware サーバーを参照するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 [サーバー (Servers)]をクリックして、検索を開始します。
リストには、アクセス権を持つ vCenter Server とスタンドアロンの ESXi サーバーが含まれます。
サーバーを見つけるには、検索フィールドに文字列を入力します。
- 3 サーバーをクリックしてドリルダウンを開始します。
上向き矢印をクリックすると、より高いレベルに移動して戻れます。
- 4 VMをクリックすると、保護状態、リカバリポイント、リストアアクティビティが表示されます。
- 5 計画に VM をサブスクライブするには、[保護の構成 (Configure protection)]をクリックします。

VMware サーバーの削除

NetBackup 管理コンソールを使用して VMware サーバーを削除できます。NetBackup の管理者にお問い合わせください。

インテリジェント VM グループの作成

クエリーと呼ばれるフィルタのセットに基づいて、インテリジェント VM グループを作成できます。NetBackup は、クエリーに基づいて自動的に仮想マシンを選択し、それらをグループに追加します。その後、グループに保護を適用できます。インテリジェントグループでは、VM 環境内の変更が自動的に反映されるため、グループ内の VM のリストを手動で修正する必要がないことに注意してください。

メモ: この手順には、バックアップ管理者の役割が必要です。

インテリジェント VM グループを作成するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 [インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)]タブ、[追加 (Add)]の順にクリックします。
- 3 グループの名前と説明を入力します。

- 4 [vCenter またはスタンドアロン ESXi サーバーの追加 (Add vCenter or standalone ESXi server)]をクリックします。

メモ: Web UI に、役割とそのアクセス権 (RBAC) に基づいてアクセス可能なサーバーが表示されます。

- 5 適切なサーバーを選択して、[保存 (Save)]をクリックします。
- 6 [仮想マシンのクエリーの作成 (Create query for virtual machines)]では、次のいずれかの操作を行えます。
- デフォルトクエリーである[このサーバー内のすべての VM を含める (Include all VMs in this server)]を選択します。
保護計画の実行時に、vCenter または ESXi 内に現在存在するすべての VM がバックアップ用を選択されます。
 - 独自のクエリーを作成します。[条件の追加 (Add condition)]をクリックします。
- 7 条件を追加するには、ドロップダウンを使用してキーワードとオペレータを選択して、値を入力します。

この手順の後に、オプションについて説明します「[インテリジェント VM グループ作成のためのクエリーオプション](#)」。

以下がクエリーの例です。

+ Condition

displayName ▾ Contains ▾ prod	
-------------------------------------	--

この例のクエリーは、表示名に prod が含まれるすべての VM をグループに追加します。

クエリーの効果を変更するには、[+ 条件 (Condition)]をクリックし、[AND]または [OR]をクリックしたら、キーワード、オペレータ、および条件の値を選択します。次に例を示します。

AND
OR
+ Condition

displayName ▾ Contains ▾ prod	
tag ▾ = ▾ eng	

この例では、AND を使用してクエリーの範囲を絞り込みます。表示名に prod が含まれ、eng という名前のタグを持つ VM のみが選択されます。VM の表示名に prod

が含まれず、eng という名前のタグがない場合、その VM はグループに追加されません。

クエリーの範囲を広げるには、[OR]を使用します。



The screenshot shows a query builder interface with two conditions. The top condition is 'displayName' contains 'prod'. The bottom condition is 'tag' equals 'eng'. The 'OR' operator is selected between the two conditions. A '+ Condition' button is visible in the top right corner.

Operator	Field	Operator	Value	Action
AND	displayName	Contains	prod	🗑️
OR	tag	=	eng	🗑️

この例では、[OR]が設定されているため、クエリーでグループに次のものが追加されます。

- 表示名に prod が含まれる VM (タグに関係なく)。
- eng という名前のタグを持つ VM (表示名に関係なく)。

- 8 クエリーをテストするには、[プレビュー (Preview)]をクリックします。

メモ: クエリーベースの選択処理は動的です。仮想環境の変更は、保護計画の実行時にクエリーが選択する仮想マシンに影響する可能性があります。その結果、保護計画が後で実行された時にクエリーが選択する VM が、プレビューに現在表示されているものと同じでなくなる可能性があります。

メモ: VMware サーバーの VM の検出が、VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプションに設定された間隔に従って実行されます (デフォルトは 8 時間)。クエリーが選択できる状態になるには、Web UI が各サーバー上の VM を検出する必要があります。VMware サーバーが Web UI に最近追加された場合、その VM は検出されない可能性があります。VM をすぐに検出するには、次のトピックで説明するように NetBackup ディスカバリーサービスを再起動します。

p.30 の「[VMware サーバーを参照するときに発生するエラー](#)」を参照してください。

- 9 グループを保護計画に追加せずに保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。保存して保護計画に追加するには、[保存して保護 (Save and protect)]をクリックして計画を選択し、[保護 (Protect)]をクリックします。

メモ: [プレビュー (Preview)]をクリックするかグループを保存した場合、グループの VM を選択するときに、クエリーオプションでは大文字小文字が区別されます。[仮想マシン (Virtual machine)]で、グループに選択されていない VM をクリックすると、[仮想マシングループのメンバー (Member of virtual machine groups)]フィールドは none になります。

ただし、保護計画にグループを追加したときに、保護計画のバックアップが実行されると、一部のクエリーオプションは、大文字と小文字が区別されないものとして扱われます。その結果、同じ VM がグループに含められてバックアップされる場合があります。

各オプションの大文字小文字関連の動作は、「[インテリジェント VM グループ作成のためのクエリーオプション](#)」を参照してください。

インテリジェント VM グループ作成のためのクエリーオプション

表 2-1 クエリーキーワード

キーワード	説明
クラスタ	VM が存在するクラスタ (ESXi サーバーのグループ) の名前。 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。
datacenter	データセンターの名前。 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。
datastore	データストアの名前。 保護計画の実行時には大文字と小文字が区別されます。
displayName	VM の表示名。 保護計画の実行時には大文字と小文字が区別されます。
host	ESXi サーバーの名前。ESXi ホスト名は vCenter Server で定義された名前と一致する必要があります。 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。
tag	VM のタグの名前。 保護計画の実行時には大文字と小文字が区別されます。
dnsName	vSphere Client の VM の DNS 名。 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。
hostName	IP アドレスの逆引きから導かれる VM 名。 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。
instanceUuid	VM のインスタンス UUID。 例: 501b13c3-52de-9a06-cd9a-ecb23aa975d1 保護計画の実行時には大文字と小文字は区別されません。

表 2-2 クエリー演算子

演算子	説明
文字列の先頭 (Starts with)	文字列の先頭に値が出現する場合に一致します。 たとえば、入力した値が「box」の場合、このオプションは文字列「box_car」と一致しますが、「flatbox」とは一致しません。

演算子	説明
文字列の末尾 (Ends with)	文字列の末尾に値が出現する場合に一致します。 たとえば、入力した値が「dev」の場合、このオプションは文字列「01dev」と一致しますが、「01dev99」または「devOP」とは一致しません。
次の値を含む (Contains)	入力した値が文字列のどこにある場合でも一致します。 たとえば、入力した値が「dev」の場合、このオプションは「01dev」、「01dev99」、「devOP」、「development_machine」などの文字列と一致します。
=	入力した値にのみ一致します。 たとえば、入力した値が「VMTest27」の場合、このオプションは「VMtest27」（大文字小文字が同じ）とは一致しますが、「vmtest27」、「vmTEST27」、または「VMtest28」とは一致しません。
!=	入力した値と等しくない任意の値と一致します。

インテリジェント VM グループの削除

インテリジェント VM グループを削除するには、次の手順を使用します。

メモ: この手順には、バックアップ管理者の役割が必要です。

インテリジェント VM グループを削除するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 [インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)]タブでグループを見つけます。
- 3 グループが保護されていない場合は、チェックボックスにチェックマークを付けて[削除 (Delete)]をクリックします。
- 4 グループが保護されている場合は、グループをクリックしてスクロールダウンし、鍵の記号をクリックして、[サブスクリプション解除 (Unsubscribe)]をクリックします。
- 5 [削除]をクリックします。

VM またはインテリジェント VM グループの保護

次の手順を使用して、資産 (VM またはインテリジェント VM グループ) を保護計画にサブスクリプションします。保護計画に資産をサブスクリプションするときに、定義済みのバックアップ設定を資産に割り当てます。

次の要件に注意してください。

- **NetBackup** セキュリティ管理者が割り当てた適切な役割に基づくアクセス制御 (RBAC) を使用した、VM へのアクセス権が必要です。
- バックアップ管理者が (RBAC を使用して) アクセス権を付与した保護計画に対するアクセス権が必要です。
- マスターサーバー上で適切なサービスが実行されており、Web UI がアクセス可能である必要があります。
サポートが必要な場合は、バックアップ管理者にお問い合わせください。

VM または VM グループを保護するには

- 1 左側の [VMware] をクリックします。
- 2 [仮想マシン (Virtual machine)] タブまたは [インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)] タブで、VM または VM グループにチェックマークを付けて [保護の構成 (Configure protection)] をクリックします。
- 3 保護計画をクリックし、右側で詳細を確認します。

VMware 管理者の場合、RBAC のアクセス権によって、表示される保護計画が決まります。利用可能な保護計画のオプションの説明は、次の場所にある『NetBackup Web UI バックアップ管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

- 4 VM または VM グループを、選択した計画にサブスクライブするには、[保護 (Protect)] をクリックします。

[仮想マシン (Virtual machines)] または [インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)] に、選択の結果が表示されます。

メモ: VM のオンデマンド (手動) バックアップを実行するには、NetBackup 管理者にお問い合わせください。オンデマンドバックアップを実行するには、NetBackup 管理コンソールへのアクセスが必要です。

VM またはインテリジェント VM グループの保護状態の表示

VM または VM グループがサブスクライブされている現在の保護計画を表示できます。

VM または VM グループの保護状態を表示するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 [仮想マシン (Virtual machine)]タブまたは[インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)]タブで、VM または VM グループをクリックします。

VM の場合、[保護 (Protection)]タブは、資産がサブスクライブされている計画の詳細を表示します。

- 3 保護された VM について詳しくは、[詳細 (More)...]をクリックします。
- 4 資産が保護されていない場合は、その資産にチェックマークを付けて[保護の構成 (Configure protection)]をクリックして、計画にサブスクライブします。

p.18 の「[VM またはインテリジェント VM グループの保護](#)」を参照してください。

VM またはインテリジェント VM グループの保護の解除

VM またはインテリジェント VM グループのサブスクライブを、保護計画から解除できます。資産のサブスクライブが解除されると、バックアップは実行されなくなります。

VM またはインテリジェント VM グループの保護を解除するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 [仮想マシン (Virtual machines)]タブまたは[インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)]タブで、VM またはインテリジェント VM グループをクリックします。

- VM の場合は、下にスクロールして[保護計画からサブスクライブ解除 (Unsubscribe from protection plan)]をクリックします。
- インテリジェント VM グループの場合は、下にスクロールし鍵の記号をクリックして、[サブスクライブ解除 (Unsubscribe)]をクリックします。

[仮想マシン (Virtual machines)]または[インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)]で、資産が[保護されていません (Not protected)]と表示されます。

インスタントアクセス VM の作成

NetBackup バックアップイメージから、インスタントアクセス VM を作成できます。仮想マシンは瞬時に利用可能になるため、ほぼゼロのリカバリ時間目標を達成できます。

NetBackup は仮想マシンのスナップショットをバックアップストレージデバイスに直接マウントするため、ESXi ホストまたはクラスタはスナップショットを通常の仮想マシンとして扱えます。

マウントされた VM のスナップショットは、さまざまな目的に使用できます。次に例を示します。

- VM からのファイルのリカバリ、または vmdk ファイルのコピー。
- パッチのテストなど、VM でのテストの実行。
- トラブルシューティングまたはディザスタリカバリ。
- アプリケーションの検証。

メモ: このインスタントアクセス機能は、NetBackup アプライアンスに対してのみサポートされます。この機能では、NetBackup バックアップイメージがメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージデバイスに格納されることが必要です。インスタントアクセス VM の使用に関する追加の注意事項と制限事項:

p.23 の「[インスタントアクセス機能を使用する前の考慮事項](#)」を参照してください。

インスタントアクセス VM を作成するには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 VM を特定してクリックします。
- 3 [リカバリポイント (Recovery points)]タブをクリックし、バックアップが発生した日付をクリックします。

利用可能なイメージは、各イメージのバックアップタイムスタンプ付きで各行に表示されます。
- 4 リカバリするイメージで、[リカバリ (Recover)]、[インスタントアクセス仮想マシンの作成 (Create instant access virtual machine)]の順にクリックします。
- 5 リカバリの設定を確認し、必要に応じて変更します。

[リカバリオプション (Recovery options)]に注意してください。

既存の仮想マシンの上 同じ表示名を持つ VM が宛先にある場合、リカバリが始まる前にその書きを許可する (Allow overwrite of existing virtual machine) の VM を削除する必要があります。そうしないと、リストアは失敗します。

プロビジョニング後に リカバリが完了すると、VM の電源が自動的にオンになります。
電源をオン (Power on after provisioning)

- 6 [作成 (Create)]をクリックします。

NetBackup では、VM バックアップイメージのスナップショットを作成し、インスタントアクセスマウントポイントを作成します。イメージのスナップショットは、[インスタントアクセス仮想マシン (Instant access virtual machines)]タブに表示されます。VM を ESXi サーバーの他の VM と同じように使用できるようになりました。

- 7 リストアされた VM について詳しくは、[インスタントアクセス仮想マシン (Instant access virtual machines)] タブの下にある VM をクリックし、[詳細の表示 (View details)] をクリックします。
- 8 VM での作業が終了したら、マウントされている VM のスナップショットを削除するために [削除 (Delete)] をクリックできます。VM が ESXi サーバーから削除されます。

インスタントアクセス VM からの個々のファイルのリカバリ

VM のインスタントアクセスイメージを参照して、個々のファイルをリカバリできます。

メモ: インスタントアクセス VM の使用に関する注意事項と制限事項:

p.23 の「[インスタントアクセス機能を使用する前の考慮事項](#)」を参照してください。

インスタントアクセス VM から個々のファイルをリカバリするには

- 1 左側の [VMware] をクリックします。
- 2 VM を特定してクリックします。
- 3 [リカバリポイント (Recovery points)] タブをクリックします。カレンダービューで、バックアップが発生した日付をクリックします。
利用可能なイメージが、それぞれのバックアップタイムスタンプと一緒に一覧表示されます。
- 4 リカバリするイメージで、[リカバリ (Recover)]、[単一ファイルリカバリのためのファイルの参照 (Browse files for single file recovery)] の順にクリックします。
NetBackup は、バックグラウンドでインスタントアクセスマウントポイントを作成します。
- 5 1 つのファイル (フォルダや複数ファイルではない) を選択します。
フォルダをクリックしてドリルダウンします。階層の上位レベルに移動して戻するには、ホームアイコンを使用します。次に例を示します。



🏠 > usr > bin

- 6 リカバリ方法を選択します。
 - [ダウンロード (Download)] をクリックして、ローカルホストにファイルをダウンロードします。
プロンプトで、NetBackup アプライアンスの Web サーバーが使用する SSL 証明書を受け入れます。会社でサードパーティの SSL 証明書を使用している場

合は、対応するルート CA SSL 証明書を環境に配備できます。このようにすることで、証明書の受け入れが必要なくなります。

メモ: Web UI では、NetBackup マスターサーバーが NetBackup メディアサーバーへの接続に使用すると同じ名前または IP アドレスを持つメディアサーバーにアクセスできる必要があります。

p.31 の「**インスタントアクセス VM からファイルをダウンロードするときに発生するエラー**」を参照してください。

- [リストア (Restore)] をクリックして、ファイルを元の VM にリストアします。VM のユーザー名とパスワードと、VM のリストア先のパス (デフォルトは元のファイルパス) を入力します。

メモ: Web UI では、現在、別の VM または別の VMware サーバーへのファイルのリストアはサポートしていません。

- 7 [リストア] をクリックします。

インスタントアクセス機能を使用する前の考慮事項

インスタントアクセス仮想マシン機能について、次の点に注意します。

- この機能は、Web UI を使用して保護計画から作成されたバックアップコピーでサポートされます。NetBackup 管理コンソールで作成された従来のポリシーが、VM インスタンス UUID をプライマリ VM 識別子として使用している場合は、このポリシーでもインスタントアクセスがサポートされます。
- この機能は、NetBackup の VMware ポリシー形式のみをサポートします。Web UI の保護計画で使用されるポリシー形式については、バックアップ管理者にお問い合わせください。
- この機能は、NetBackup アプライアンスに対してのみサポートされます。
- この機能では、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) メディアサーバー上の同時マウントポイントが 50 個に制限されます。
- デフォルトでは、vSphere は、ESXi サーバーあたりに最大で 8 つの NFS マウントを許可します。NetBackup では、作成するインスタントアクセス VM それぞれに、NFS マウントが必要であることに注意してください。NFS マウントを解除するには、使用し終わったインスタントアクセス VM を削除します。

ESXi ホストの NFS の制限に達した場合に別のインスタントアクセス VM を作成しようとすると、その試みは失敗します。ESXi サーバーあたりの NFS マウントの最大数を増やすには、次の VMware の記事を参照してください。

<https://kb.vmware.com/s/article/2239>

- この機能では、独立したディスクを備えた VM のバックアップをサポートしていません。VMware では、永続的なディスクでも非永続的なディスクでも、VM 内の独立したディスクのスナップショットをサポートしていません。その結果、独立したディスクはバックアップされません。

独立したディスクと NetBackup について詳しくは、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000081966

- この機能は、バックアップから除外されたディスクを持つ VM をサポートしていません。NetBackup ポリシーの[ディスクを除外 (Exclude Disks)]タブで、[除外したディスクはありません (No disks excluded)]オプションを選択する必要があります。
- raw デバイスマッピングモード (RDM) または永続モードのディスクがある VM は、この機能ではサポートされません。
- Windows 単一ファイルのリストアの場合、LDM ボリュームと ReFS ファイルシステムはサポートされず、アクセス制御リスト (ACL) は維持されません。
- インスタントアクセス仮想マシンを使用した VM 作成に使用される ESXi サーバーのバージョンは、VM のバックアップイメージを含む ESXi サーバーのバージョンと同じか、それより新しい必要があります。
- この機能は、サイズが最大で 1 GB の、単一ファイルのリストアをサポートします。大きなファイルの場合、[ダウンロード (Download)]オプションを使用するか、VM を起動して必要なファイルをコピーします。
- [ダウンロード (Download)]オプションを使用した単一ファイルのダウンロードの場合、NetBackup Web UI では、マスターサーバーがメディアサーバーへの接続に使用するのと同じ名前または IP アドレスを持つメディアサーバーにアクセスできる必要があります。p.31 の「[インスタントアクセス VM からファイルをダウンロードするときに発生するエラー](#)」を参照してください。
- メディアサーバーのアプライアンスがサードパーティの証明書を使用する場合、この機能を使用する前に、NetBackup マスターサーバーで特定の構成を作成する必要があります。
詳しくは、次の場所から入手可能な『NetBackup Appliance セキュリティガイド』で、サードパーティの証明書に関するセクションと、サードパーティの SSL 証明書の実装に関するセクションを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

VM の元の場所へのリカバリ

VM は、バックアップが実行されたときに存在していた場所にリカバリできます。

VM を元の場所にリカバリするには

- 1 左側の[VMware]をクリックします。
- 2 VM を特定してクリックします。
- 3 [リカバリポイント (Recovery points)]タブをクリックします。左側の[カレンダー (Calendar)]ビューで、バックアップが発生した日付をクリックします。
利用可能なイメージが、それぞれのバックアップタイムスタンプと一緒に一覧表示されます。
- 4 リカバリするイメージで、[リカバリ (Recover)]、[元の場所に (To original location)]の順にクリックします。
- 5 次のオプションを確認または変更します。

リカバリオプション:

既存の仮想マシンの上 同じ表示名を持つ VM が宛先にある場合、リカバリが始まる前にその書きを許可する (Allow overwrite of existing virtual machine) の VM を削除する必要があります。そうしないと、リストアは失敗します。

リカバリ後に電源をオンにする (Power on after recovery) リカバリが完了すると、VM の電源が自動的にオンになります。

詳細設定:

新しい BIOS UUID の作成 (Create a new BIOS UUID) 元の BIOS UUID の代わりに、新しい BIOS UUID で VM をリストアします。

新しいインスタンス UUID の作成 (Create a new instance UUID) 元のインスタンス UUID の代わりに、新しいインスタンス UUID で VM をリストアします。

デバイスの補助情報を削除 (Remove backing information for devices) たとえば、このオプションは、VM がバックアップされた時にマウントされた ISO ファイルをリストアせずに VM をリストアします。

元のネットワーク構成を削除 (Remove original network configuration)

NIC カードを VM から削除します。ネットワークアクセスでは、リストア済みの VM にはネットワーク構成が必要であることに注意してください。

このオプションは、次の場合に有効にします。

- バックアップの作成後に宛先の仮想マシンのネットワーク接続が変更されている場合。
- 元の仮想マシンがまだ存在し、VM の重複によって競合が発生する場合。

ハードウェアの元のバージョンを保持する (Retain original hardware version)

元のハードウェアバージョン (4 など) で VM をリストアするには、このオプションを有効にします。ターゲット ESXi サーバーがデフォルトで異なるハードウェアバージョン (7、8 など) を使用している場合でも、元のバージョンが保持されます。ターゲット ESXi サーバーが仮想マシンのハードウェアバージョンをサポートしていない場合は、リストアに失敗する可能性があります。

このオプションが無効の場合、リストアされた仮想マシンは ESXi サーバーによって使われるデフォルトのハードウェアバージョンに変換されます。

リストアされる仮想ディスクのフォーマット:

元のプロビジョニング (Original provisioning)

元のプロビジョニングで VM の仮想ディスクをリストアします。

Lazy Zero をシックプロビジョニング (Thick provisioning lazy zeroed)

シック形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。仮想ディスク容量はディスクが作成されるときに割り当て済みです。このオプションは入力されたブロックをリストアしますが、オンデマンドで空いているブロックをゼロで初期化します。

メモ: vmdk が完全に書き込まれると、VMware は Lazy-Zeroed ディスクを [Eager Zeroed をシックプロビジョニング (Thick provisioning Eager Zeroed)] に自動的に変換します。

Eager Zeroed をシックプロビジョニング (Thick provisioning eager zeroed)

シック形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。データが入力されたブロックをリストアし、ただちに空のブロックをゼロで初期化します (Eager Zeroed)。このオプションを使用すると仮想ディスクの作成により時間がかかることがあります。ただし、リストアが SAN で起きた場合、Eager Zeroed 機能により vCenter サーバーとのネットワーク通信が減少することによってリストアが高速化されることがあります。

シンプロビジョニング シン形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。データが入力されたブロックはリストアしますが、空いているブロックを初期化したリコミットしたりはしません。シンプロビジョニングは vmdk ファイルの動的拡張を介してディスク領域を節約します。vmdk ファイルは仮想マシンのデータが必要とする領域より大きくなりません。仮想ディスクのサイズは必要に応じて自動的に増加します。

メモ: vmdk が完全に書き込まれると、VMware はシンディスクを [Eager Zeroed をシンプロビジョニング (Thick provisioning Eager Zeroed)] に自動的に変換します。

- 6 [リカバリの開始 (Start recovery)] をクリックします。

表示を更新すると、[リストアアクティビティ (Restore activity)] タブにジョブの進捗が表示されます。

リカバリの状態コードについては詳しくは、NetBackup 管理者に問い合わせるか、次の場所から入手できる『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

VM の代替の場所へのリカバリ

VM は、バックアップが実行されたときに存在していた場所以外の場所にリカバリできません。

VM を代替の場所にリカバリするには

- 1 左側の [VMware] をクリックします。
- 2 VM を特定してクリックします。
- 3 [リカバリポイント (Recovery points)] タブをクリックします。左側の [カレンダー (Calendar)] ビューで、バックアップが発生した日付をクリックします。
利用可能なイメージが、それぞれのバックアップタイムスタンプと一緒に一覧表示されます。
- 4 リカバリするイメージで、[リカバリ (Recover)]、[代替の場所に (To alternate location)] の順にクリックします。
- 5 次のオプションを確認または変更します。
[リストア先 (Restore to)]:
 - 新しい VM 表示名に `_copy` を付けて一覧表示します。

- ESXi サーバーまたはクラスター、その他の宛先の詳細を一覧表示します。デフォルトは、元の VM イメージから取得されます。選択内容を変更するには、[変更 (Change)] をクリックします。

リカバリオプション:

既存の仮想マシンの上書きを許可する (Allow overwrite of existing virtual machine) 同じ表示名を持つ VM が宛先にある場合、リカバリが始まる前にその VM を削除する必要があります。そうしないと、リストアは失敗します。

リカバリ後に電源をオンにする (Power on after recovery) リカバリが完了すると、VM の電源が自動的にオンになります。

詳細設定:

新しい BIOS UUID の作成 (Create a new BIOS UUID) 元の BIOS UUID の代わりに、新しい BIOS UUID で VM をリストアします。

新しいインスタンス UUID の作成 (Create a new instance UUID) 元のインスタンス UUID の代わりに、新しいインスタンス UUID で VM をリストアします。

デバイスの補助情報を削除 (Remove backing information for devices) たとえば、このオプションは、VM がバックアップされた時にマウントされた ISO ファイルをリストアせずに VM をリストアします。

元のネットワーク構成を削除 (Remove original network configuration) NIC カードを VM から削除します。ネットワークアクセスでは、リストア済みの VM にはネットワーク構成が必要であることに注意してください。
このオプションは、次の場合に有効にします。

- バックアップの作成後に宛先の仮想マシンのネットワーク接続が変更されている場合。
- 元の仮想マシンがまだ存在し、VM の重複によって競合が発生する場合。

ハードウェアの元のバージョンを保持する (Retain original hardware version)

元のハードウェアバージョン (4 など) で VM をリストアするには、このオプションを有効にします。ターゲット ESXi サーバーがデフォルトで異なるハードウェアバージョン (7、8 など) を使用している場合でも、元のバージョンが保持されます。ターゲット ESXi サーバーが仮想マシンのハードウェアバージョンをサポートしていない場合は、リストアに失敗する可能性があります。

このオプションが無効の場合、リストアされた仮想マシンは ESXi サーバーによって使われるデフォルトのハードウェアバージョンに変換されます。

リストアされる仮想ディスクのフォーマット:

元のプロビジョニング (Original provisioning)

元のプロビジョニングで VM の仮想ディスクをリストアします。

Lazy Zero をシックプロビジョニング (Thick provisioning lazy zeroed)

シック形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。仮想ディスク容量はディスクが作成されるときに割り当て済みです。このオプションは入力されたブロックをリストアしますが、オンデマンドで空いているブロックをゼロで初期化します。

メモ: vmdk が完全に書き込まれると、VMware は Lazy-Zeroed ディスクを [Eager Zeroed をシックプロビジョニング (Thick provisioning Eager Zeroed)] に自動的に変換します。

Eager Zeroed をシックプロビジョニング (Thick provisioning eager zeroed)

シック形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。データが入力されたブロックをリストアし、ただちに空のブロックをゼロで初期化します (Eager Zeroed)。このオプションを使用すると仮想ディスクの作成により時間がかかることがあります。ただし、リストアが SAN で起きた場合、Eager Zeroed 機能により vCenter サーバーとのネットワーク通信が減少することによってリストアが高速化されることがあります。

シンプロビジョニング シン形式でリストアされた仮想ディスクを構成します。データが入力されたブロックはリストアしますが、空いているブロックを初期化したりコミットしたりはしません。シンプロビジョニングは `vmdk` ファイルの動的拡張を介してディスク領域を節約します。`vmdk` ファイルは仮想マシンのデータが必要とする領域より大きくなりません。仮想ディスクのサイズは必要に応じて自動的に増加します。

メモ: `vmdk` が完全に書き込まれると、VMware はシンディスクを [Eager Zeroed をシンプロビジョニング (Thick provisioning Eager Zeroed)] に自動的に変換します。

6 [リカバリの開始 (Start recovery)] をクリックします。

表示を更新すると、[リストアアクティビティ (Restore activity)] タブにジョブの進捗が表示されます。

リカバリの状態コードについては、NetBackup 管理者に問い合わせるか、次の場所から入手できる『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

VMware サーバーを参照するときに発生するエラー

次の表では、[VMware サーバー (VMware servers)] でサーバーをクリックしたときに発生する可能性のある問題について説明します。

表 2-3 VMware サーバーの参照エラー

エラーメッセージまたは原因	説明および推奨処置
VMware サーバーに対して VM 検出が開始されていないか、サーバー名が無効です。	<ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server または ESXi サーバーの名前やクレデンシヤルが、誤って入力された可能性があります。 推奨処置: NetBackup 管理コンソールで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]、[クレデンシヤル (Credentials)]、[仮想マシンサーバー (Virtual Machine Servers)] の順にクリックして、サーバー名とクレデンシヤルを確認して必要に応じて修正します。 ■ サーバーが最近追加された場合は、そのサーバーの VM 検出プロセスがまだ実行されていない可能性があります。 推奨処置: 次のように、NetBackup マスターサーバー上でディスカバリーサービスを停止して再起動します。 メモ: この手順には、NetBackup マスターサーバーの管理者権限が必要です。詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。 Windows の場合 サービスを停止します。 <pre>install_path¥bin¥bpdwn.exe -e "NetBackup Discovery Framework" -f -v</pre> サービスを再起動します。 <pre>install_path¥bin¥bpup.exe -e "NetBackup Discovery Framework" -f -v</pre> Unix または Linux の場合 サービスを停止します。 <pre>usr/opensv/netbackup/bin/nbdisco -terminate</pre> サービスを再起動します。 <pre>usr/opensv/netbackup/bin/nbdisco</pre> <p>メモ: vCenter または ESXi サーバーの VM の検出が、VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプションの設定された間隔に従って実行されます (デフォルトは 8 時間)。次のトピックでは、その間隔を変更する方法について説明します。</p> <p>p.32 の「NetBackup サーバーの VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプション」を参照してください。</p>

インスタントアクセス VM からファイルをダウンロードするときに発生するエラー

次の表では、インスタントアクセス VM から個別のファイルをダウンロードするときに発生する可能性がある問題について説明します。

表 2-4 ファイルのダウンロードのエラー

エラーメッセージまたは原因	説明および推奨処置
このサイトにアクセスできません (Chrome) Server not found (Firefox) このページに到達できません (Edge)	このエラーは、次のいずれかの理由により発生する可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> NetBackup マスターサーバーがメディアサーバーへの接続に使用する名前や IP アドレスを使用して、Web UI がこの NetBackup メディアサーバーにアクセスできません。 例: マスターサーバーが MSserver1.veritas.com を使用してメディアサーバーに接続する場合、Web UI も MSserver1.veritas.com に到達する必要があります。マスターサーバーが MSserver1 などの短縮名をメディアサーバーに使用している場合、Web UI は https://MSserver1/... に到達する必要があります。 推奨処置: マスターサーバーと Web UI が、メディアサーバーへのアクセスに同じ名前または IP アドレスを使用していることを確認します (hosts ファイルを確認)。例: マスターサーバーがメディアサーバーの短縮名を使用している場合は、Web UI を実行している PC またはその他のホストの hosts ファイルに、メディアサーバーの短縮名と IP アドレスを追加します。 Windows 上のホストファイルの場所: C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts UNIX または Linux 上のホストファイルの場所: /etc/hosts NetBackup メディアサーバーがファイアウォールの背後にあるため、Web UI がそのサーバーにアクセスできません。 推奨処置: NetBackup セキュリティ管理者に問い合わせてください。

NetBackup サーバーの VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL オプション

このオプションは、**NetBackup** が仮想マシンを検出して **NetBackup Web UI** に表示するために、vCenter Server をスキャンする頻度を制御します。

表 2-5 VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL 情報

使用方法	説明
使用する場所	NetBackup マスターサーバー上。

使用方法	説明
使用方法	<p>オプションを表示、追加、変更するには、nbgetconfig コマンドと nbsetconfig コマンドを使用します。</p> <p>メモ: これらのコマンドでは、NetBackup マスターサーバーの管理者権限が必要です。詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。</p> <p>デフォルトは 8 時間です。最小値は 5 分で、最大値は 1 年です。</p> <p>次の形式を使用します。</p> <pre>VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL = number of seconds</pre> <p>次に例を示します。</p> <pre>VMWARE_AUTODISCOVERY_INTERVAL = 100000</pre> <p>このエントリは、設定ファイルで一度のみ表示されます。</p> <p>メモ: このオプションを変更した後、NetBackup サービスを停止して再起動します。VM の検出の場合、NetBackup Discovery Framework サービスが実行中である必要があります。</p>
同等の管理コンソールのプロパティ	<p>NetBackup 管理コンソールまたは Web UI に、相当する機能は存在しません。</p>